

たじみん昼話 53

マイナーがメジャーを変える

世の中で物事を決定するときは、多数決方式を採用することが多い。もちろん、そこに至るまでは、十分話し合っただけで考えを出し切ってから行う必要があるのは、言うまでもないことだが、やはり数の力、即ち「多い」というのは、支配力を持つのだ。

しかし、物事の決定権は、多数派ばかりが持つとは限らないのが自然界だ。特に、化学の世界では、少数派が物事を決定することが多い。その一つの例としてレアメタル（中々とれない金属、だからレア（希））がある。

レアメタルとは少量で磁石の性能を飛躍的に向上させる力がある。私たちが日頃お世話になっているスマホやハイブリットカー、パソコン等、多くのハイテク機器にはモーターが欠かせない。このモーターの性能を左右するのが、磁石の性能だからだ。

化学の教科書の周期律表を見て欲しい。ネオジムなど「ランタノイド」と呼ばれるゾーンの15種類に、スカンジウムとイットリウムを加えた17種類の元素がレアメタルだ。

ちなみに、料理の世界でも、少量の塩や砂糖、胡椒など、わずかな量でその味を支配している少数派の存在は重要だと言われている。

つい、自分の個性を消してしまい、多数に埋もれてしまうことが多いとは思いますが、自分の魅力を再確認してはどうだろうか。意外な力が眠っているかもしれないのだから。

※つい先日、このほぼ輸入に依存していたレアメタルが、日本の排他的経済水域にある南鳥島周辺で、日本の年間需要量の数十年から数百年分埋蔵されていることが発見され、大ニュースとなった。日本のハイテク産業は再び日の目を見るのだろうか。楽しみだ。